俳諧 ―品詞分解―

松尾芭蕉

かれ枝に（格助・場所）烏の（格助・主格）とまりけり（ラ四・用／詠・終）
秋の（格助・体修）暮

大津に（格助・帰着）至る（ラ四・体）道、山路を（格助・経場）こえて（接助・単接）
山路来（カ変・用）て（接助・単接）何やら（副）ゆかし（形シク・終）すみれ草

病中吟

旅に（格助・場所）病ん（マ四・用（撥音））で（接助・単接）夢は（係助・区別）枯野を（格助・経場）
かけめぐる（ラ四・終）

与謝蕪村

春の（格助・体修）海ひねもすのたりのたり（副）かな（終助・詠嘆）

五月雨や（間助・詠嘆）大河を（格助・対象）前に（格助・状態）家二軒

牡丹散つ（ラ四・用（促音））て（接助・単接）うち重なり（ラ四・用）ぬ（完・終）二三片

小林一茶

有明　や　浅間　の　霧　が　膳　を　はふ
（間助・詠嘆）　（格助・体修）　（格助・主格）　（格助・経場）　（ハ四・終）

十二月二十四日、故郷　に　入る
（格助・帰着）　（ラ四・終）

これ　が　まあ　つひ　の　栖　か　雪五尺
（代）　（格助・主格）　（感）　（格助・体修）　（終助・詠嘆）

蛙戦ひ　見　に　まかる、四月二十日　なり　けり
（上一・用）　（格助・目的）　（ラ四・終（丁）作者→読者）　（断・用）　（過・終）

痩せ蛙　まける　な　一茶　これ　に　あり
（カ下二・体）　（終助・禁止）　（格助・場所）　（ラ変・終）